



志木二小だより

平成29年7月号

志木市立志木第二小学校
埼玉県志木市館1丁目2番1号
電話 472-0540

//// 学校教育目標 **進んで学ぶ子 心の豊かな子 体をきたえる子** //

児童数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	たんぼぼ	7/1現在	昨年同時期
	77	77	83	102	86	88	14	527名	539名



歌い継がれて半世紀！

校長 安田 一也

さて、なぞなぞの問題です。

1円玉さん、5円玉さん、10円玉さん、50円玉さんが100円玉さんの伴奏、500円玉さんの指揮で誇らしげに歌っているよ。何の歌を歌っているのかな？

そうです。答えは、「校歌」(硬貨)です。7月1日は、志木二小の開校記念日です。開校当時を学校沿革史や関係資料から紐解いてみますと、北足立郡足立町立志木第二小学校として昭和43年4月開校、児童数712名、19学級、教職員数23名と記されています。それから約2年後、昭和45年2月10日校章や校旗の制定を祝う披露式典が、新築したばかりの体育館で盛大に挙行されました。そこで今回は、開校記念日にちなみ、半世紀余り歌い継がれてきている「校歌」にスポットを当てます。

当時、校章・校歌・校旗がなかった頃、特別制定委員会を立ち上げ、作詞については、国文学者であり市内志木小・志木中の校歌の作詞をはじめ、県内各地で校歌の作詞を手がけられた下山つとむ氏に依頼しました。下山氏は、作詞の依頼を快諾された後、実際に昭和44年10月9日に来校され、本校を視察したうえで、詞を作られたと記録されています。半世紀前、学校の理想の姿を表すとされる「校歌」に、下山氏はどのような夢を託したのでしょうか。同様に、作曲は各地で校歌を作られた折山俊也氏に依頼したと記されています。

そして、完成。校歌を披露する記念式典では、全校児童が自信と誇りをもって、堂々と声高らかに歌い上げたと言われていています。当時の児童の思いがPTA広報誌「真富士」に掲載されています。



校歌がなかった頃、遠足のバスの中でガイドさんに「皆さんの学校の校歌はありますか？」と聞かれた時、「ありません」と答えるのをとてもさびしく思っていました。でもこれからは、誰に聞かれても堂々と校歌を歌うことができます。本当にうれしいことです。(5年 女兒)

現在、入学式や卒業式等様々な学校行事で当たり前のように歌われている「校歌」、制定までに至る過程や完成した時の喜びなど、先人たちの校歌に寄せる思いに応え、次の50年に向けて歌い継いでいきます。